市　の　財　政

平成19年6月

千　葉　市

目　　次

Ⅰ　平成18年度下半期における予算の執行状況 ―― 1

Ⅱ　市民負担の状況 ―― 3

Ⅲ　財産、市債及び一時借入金の現在高 ―― 4

Ⅳ　公営企業の下半期の業務状況 ―― 6

Ⅴ　平成19年度当初予算の概要 ―― 9

※この公表の数値については、百万円単位で整理してあります。
　表示単位未満を四捨五入数値してあるので割合・一人当たりの金額・合計等が一致しない場合があります。

「千葉市財政状況の公表に関する条例」に基づき、市の財政状況について公表します。

Ⅰ　平成18年度下半期における予算の執行状況

平成19年３月31日現在

一般会計

平成18年度の歳入歳出予算は、当初3,323億円で、前回（12月）公表時点では、3,623億64百万円でありましたが、その後12月、２月に補正を行い、141億86百万円を増額しましたので、最終予算現額は、3,765億50百万円となっています。

今期中における執行状況は、収入総額で1,644億10百万円、累計額で3,057億99百万円となり、一方、支出総額で1,113億13百万円、累計額で2,282億75百万円となっています。

特別会計

公営企業会計を除く14の特別会計の総予算は、当初2,605億45百万円で、前回（12月）公表時点では、2,910億13百万円でありましたが、その後２月に老人保健医療事業特別会計他で補正を行い、総額39億62百万円を増額しましたので、総予算現額は、2,949億75百万円となっています。

今期中における執行状況は、収入総額で1,075億64百万円、累計で1,809億26百万円となり、一方、支出総額で1,426億82百万円、累計で2,470億73百万円となっています。

一般会計と特別会計の平成19年3月31日現在の予算執行状況は、次のとおりです。

（単位：百万円）

区分 / 会計名	予算現額					歳入		歳出	
	当初予算額	補正予算額（上期）	補正予算額（下期）	繰越事業繰越額	計	収入済額（累計）	収入割合（累計）	支出済額（累計）	支出割合（累計）
一般会計	332,300	16,242	14,186	13,822	376,550	305,799	81.2 %	228,275	60.6 %
国民健康保険事業	72,604	2,508	513	—	75,626	62,553	82.7 %	68,672	90.8
老人保健医療事業	41,627	168	3,851	—	45,645	39,680	86.9 %	41,382	90.7
介護保険事業	33,534	223	45	—	33,801	26,741	79.1 %	29,590	87.5
母子寡婦福祉資金貸付事業	380	—	—	—	380	386	101.5 %	316	83.2
霊園事業	693	—	—	—	693	550	79.3 %	650	93.9
農業集落排水事業	1,297	—	—	—	1,297	291	22.4 %	302	23.3
競輪事業	16,585	388	—	—	16,973	15,132	89.2 %	14,851	87.5
中央卸売市場事業	1,198	—	—	—	1,198	700	58.4 %	717	59.9
都市計画土地区画整理事業	1,129	—	—	35	1,163	150	12.9 %	600	51.6
市街地再開発事業	1,095	—	—	—	1,095	0	0.0 %	401	36.6
動物公園事業	1,535	—	—	—	1,535	516	33.6 %	1,085	70.7
公共用地取得事業	1,607	13,573	—	—	15,180	1	0.0 %	0	0.0
学校給食センター事業	2,239	—	—	—	2,239	1,119	50.0 %	1,814	81.0
公債管理	85,024	13,573	△ 447	—	98,150	33,108	33.7 %	86,693	88.3
小計	260,545	30,433	3,962	35	294,975	180,926	61.3 %	247,073	83.8
合計	592,845	46,675	18,148	13,857	671,525	486,725	72.5 %	475,348	70.8

（注）表示単位未満を四捨五入してあるので計欄及び割合が一致しない場合があります。

今期中の補正予算の主な内容は次のとおりです。

12月補正予算

一般会計	54億80百万円	
市民文化活動支援施設の取得	20億35百万円	ぱるるプラザ千葉の取得
都市基盤整備	11億60百万円	都市再生総合整備補助、蘇我スポーツ公園整備
生活保護	11億27百万円	生活扶助費、医療扶助費他
中小企業資金融資預託貸付金	11億円	預託貸付金
鉄道駅耐震補強	15百万円	鉄道駅耐震補強補助
後期高齢者医療	13百万円	千葉県後期高齢者医療広域連合関係負担金

2月補正予算

一般会計	89億98百万円	
国・県事業負担金	27億55百万円	国直轄事業負担金、幕張メッセ建設事業負担金他
教育施設整備	16億35百万円	小学校大規模改造
都市基盤整備	13億31百万円	蘇我スポーツ公園整備、蘇我駅西口駅前広場等整備他
基金積立金	12億68百万円	財政調整基金、社会福祉基金他
児童福祉施設整備	1億91百万円	児童相談所一時保護所増改築、児童福祉施設整備費助成

特別会計	39億18百万円	
老人保健医療事業	38億51百万円	老人保健医療給付費他
国民健康保険事業	5億13百万円	オンラインシステム改修、療養給付費負担金償還金他
公債管理	△4億47百万円	
下水道事業	△1億82百万円	
病院事業	1億39百万円	

※　この他、下田最終処分場跡地周辺整備におきまして、継続費の年度及び年割額の変更を、専決処分により補正いたしました。　平成18年10月4日　平成18年度　△292百万円

一般会計　地方公共団体の行政運営の基本的な経費、重要な経費を計上している会計をいいます。

特別会計　特定の目的のために設けられた会計をいいます。千葉市で国民健康保険事業ほか13の会計が条例で設置されています。

また、病院事業、下水道事業、水道事業は公営企業会計と呼ばれ、地方公営企業法に基づき独立採算を原則として設置された特別会計で、その他の特別会計とは区別されています。

補正予算　予算の編成後に生じた理由によって、既定予算に追加・変更をする必要がある場合、議会の議決を経て成立した予算をいいます。

Ⅱ　市民負担の状況

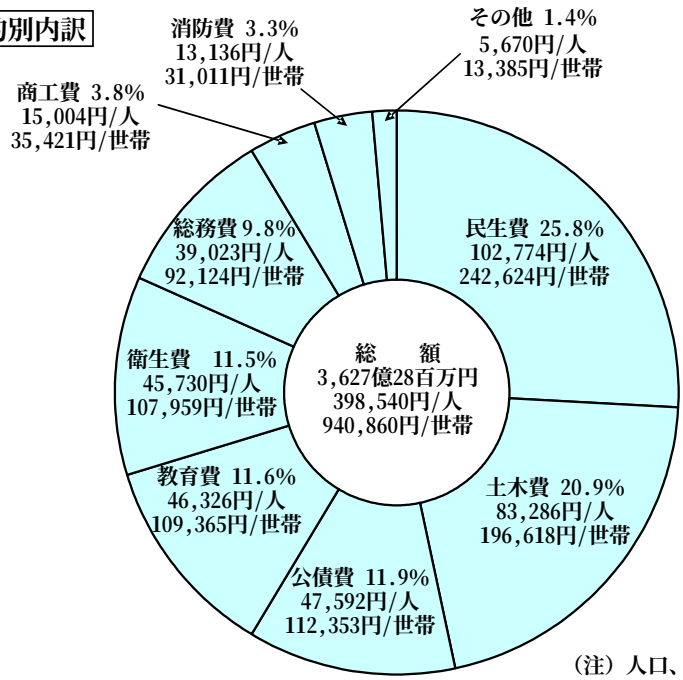
市税は、市政運営のために欠くことのできない財源であり、歳入予算総額の約5割を占めています。

平成19年3月末の予算額でみますと、市税の予算額は、1,646億51百万円（滞納繰越分と国有資産等所在市町村交付金及び納付金を除く。）となっていますので、これを平成19年3月末の人口（910,142人）及び世帯数（385,528世帯）で割りますと、市民１人当たり180,907円、１世帯当たり427,080円の負担となっています。

また、市民のために使われる経費（これを行政経費といいます。ただし、歳出予算現額から繰越額を除く。）は、市民１人当たり398,540円、１世帯当たり940,860円となっていますので、市民の行政経費の負担割合は45.4%となっています。

市民１人当たりの市税負担額・・・・・	180,907 円	うち市民税	86,441 円
		うち固定資産税	69,210 円
		その他	25,256 円
１世帯当たりの市税負担額・・・・・	427,080 円	うち市民税	204,068 円
		うち固定資産税	163,388 円
		その他	59,624 円
市民１人当たりの行政経費・・・・・	398,540 円		
１世帯当たりの行政経費・・・・・	940,860 円		

行政経費の目的別内訳



（注）人口、世帯数は住民基本台帳登録による。

Ⅲ　財産、市債及び一時借入金の現在高

平成19年３月31日現在

財産の現在高

公有財産

公有財産とは、市が所有している土地、建物、有価証券、出資による権利などの財産をいいますが、使用目的によって、行政財産（庁舎、消防施設などのような公用または学校、公営住宅、公園などの公共用に利用される財産をいいます。）と普通財産（行政財産以外の市の財産をいいます。）とに区分されます。

公営企業会計を除く公有財産の現在高は次のとおりです。

区分			土地	建物	船舶	浮桟橋	航空機	有価証券	出資による権利
			㎡	㎡	隻	個	機	百万円	百万円
公有財産	行政財産	公用	894,999.35	216,748.87	1	1	2	－	－
		公共用	13,524,460.09	2,238,798.73	－	－	－	－	－
		計	14,419,459.44	2,455,547.60	1	1	2	－	－
	普通財産		632,353.43	56,080.87	－	－	－	1,216	2,748
合計			15,051,812.87	2,511,628.47	1	1	2	1,216	2,748

基金

基金とは、特定の目的のために財産を維持し、資金を積み立て、または定額の資金を運用するためのもので、条例により目的、処分等が定められています。

（単位：百万円）

区分	現在高	設置目的
文化基金	414	市民文化の振興を図るため
市庁舎整備基金	3,543	市庁舎整備事業に必要な経費に充てるため
財政調整基金	1,847	財政の健全な運営に資するため
市債管理基金	15,220	市債の償還財源の確保及び市債の適正な管理のため
社会福祉基金	603	社会福祉の増進を図るため
地域環境保全基金	354	地域の環境の保全及び創造に資するため
地下水浄化事業推進基金	60	地下水の水質浄化事業を推進するため
リサイクル推進基金	197	廃棄物の減量及び再利用を推進するため
緑と水辺の基金	3,730	緑と水辺を生かした快適な都市環境を創造するため
都市モノレール基金	103	都市モノレール施設の更新等に必要な経費に充てるため
美術品等取得基金	1,001	美術館に収蔵する美術品等を円滑に取得するため
介護給付準備基金	1,355	介護保険事業に係る財政の中期的な調整を図るため
合計	28,428	

（注）表示単位未満を四捨五入してあるので、計が一致しない場合があります。

市債の現在高

学校、公園、清掃施設など大規模な建設事業は、その年度の財源のみでは計画的な整備を推進することができません。

そこで市は、財務省・日本郵政公社・銀行などから資金の長期借入をします。これを市債といいますが、これらの施設は、将来の市民も利用することになりますので、世代間の負担の公平を図ることができ、また、市債を活用することによって、生活環境施設の早急な整備も可能となります。

（単位：百万円）

区分		現在高	借入先	
			政府資金	民間等資金
一般会計		660,643	184,904	475,739
特別会計		37,208	12,262	24,946
	公共用地取得事業	11,279	26	11,253
	市街地再開発事業	12,953	756	12,197
	その他	12,976	11,480	1,496
合計		697,851	197,166	500,685

(注)国の減税や経済対策のため、地方の財源不足を補てんする目的で制度化された市債 172,826百万円を含む。

一時借入金の現在高

年度途中において支出が収入を上回り、歳計現金に不足を生じた場合に、その不足を補うために、一般会計にあっては銀行等から、予算で定めた限度額の範囲内で一時的に借り入れるお金を一時借入金といい、その状況は次のとおりです。

（単位：百万円）

区分	予算で定めらた限度額	前期末残高	今期中借入高	今期中償還高	今期末残高
一般会計	50,000	0	10,300	10,300	0

Ⅳ　公営企業の下半期の業務状況

平成19年3月31日現在

事業の概況

病院事業

青葉病院、海浜病院の今期中の入院及び外来患者数の利用総数は、295,019人となっています。

区分	病床数	今期中の患者利用状況				診療科目
		入院患者数	1日平均	外来患者数	1日平均	
	床	人	人	人	人	
青葉病院	380	55,658 (55,788)	306 (306)	103,333 (104,648)	861 (872)	内科、精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、麻酔科
海浜病院	301	43,997 (44,559)	242 (245)	92,031 (94,943)	712 (735)	内科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、心臓血管外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

※　（　）は前年同期の状況です。

下水道事業

今期中の有収水量は、47,104,630㎥となっています。

行政区域内人口	929,277	人	整備区域内人口	898,483	人
下水道汚水処理普及率	96.7	%			
接続戸数	370,763	戸	うち今期中増加接続戸数	4,820	戸
接続人口	871,135	人	うち今期中増加接続人口	8,796	人
整備面積	12,077	ha	うち今期中増加整備面積	35	ha
今年度接続助成件数	420	件	うち今期中接続助成件数	173	件

水道事業

今期中の配水量は、2,234,864㎥となっています。

計画給水人口	78,100	人	給水区域内人口	56,464	人
加入戸数	17,422	戸	うち今期中加入戸数	420	戸
給水戸数	15,931	戸	うち今期中増加給水戸数	273	戸
給水人口	43,471	人	うち今期中増加給水人口	607	人

配水状況

区分	前期中	今期中	計
配水量	2,246,752 ㎥ (2,111,579)	2,234,864 ㎥ (2,171,458)	4,481,616 ㎥ (4,283,037)
有収水量	2,123,594 ㎥ (2,041,277)	2,142,143 ㎥ (2,097,216)	4,265,737 ㎥ (4,138,493)

※　（　）は前年度同期の状況です。

経 理 の 概 況

病院事業、下水道事業及び水道事業の予算執行状況は次のとおりとなっています。

なお、表に使われている収益的収支とは、医療サービス、汚水の処理、水の供給のように経常的な営業活動部門の収入、支出をいい、資本的収支とは、それら営業活動に必要な施設の建設改良、機器の調達等に係る収入、支出をいいます。

病院事業　（単位：百万円）

区分		予算現額					収入		支出	
		当初予算額	補正予算額（上期）	補正予算額（下期）	繰越事業繰越額	計	執行額（累計）	執行割合（累計）	執行額（累計）	執行割合（累計）
青葉病院	収益的収支	9,670	－	139	－	9,809	8,956	91.3%	9,419	96.0%
	資本的収支	1,765	－	－	－	1,765	280	99.6%	1,764	99.9%
海浜病院	収益的収支	7,285	－	－	－	7,285	7,004	96.1%	7,081	97.2%
	資本的収支	903	－	－	－	903	353	91.7%	870	96.4%

（注）表示単位未満を四捨五入してあるので計欄及び割合が一致しない場合があります。

下水道事業　（単位：百万円）

区分	予算現額					収入		支出	
	当初予算額	補正予算額（上期）	補正予算額（下期）	繰越事業繰越額	計	執行額（累計）	執行割合（累計）	執行額（累計）	執行割合（累計）
収益的収支	22,849	－	△ 200	－	22,649	22,268	96.1%	21,987	97.1%
資本的収支	30,975	－	18	6,231	37,224	19,670	67.5%	26,212	70.4%

（注）表示単位未満を四捨五入してあるので計欄及び割合が一致しない場合があります。

水道事業　（単位：百万円）

区分	予算現額					収入		支出	
	当初予算額	補正予算額（上期）	補正予算額（下期）	繰越事業繰越額	計	執行額（累計）	執行割合（累計）	執行額（累計）	執行割合（累計）
収益的収支	1,984	－	－	－	1,984	2,025	97.5%	1,922	96.9%
資本的収支	3,091	－	－	427	3,518	2,626	89.7%	3,223	91.6%

（注）表示単位未満を四捨五入してあるので計欄及び割合が一致しない場合があります。

市債の現在高

（単位：百万円）

公営企業会計名	現在高	借入金	
		政府資金	民間等資金
病院事業	27,744	26,383	1,361
下水道事業	276,768	266,801	9,967
水道事業	14,790	14,790	0
合計	319,302	307,974	11,328

(注)国の減税や経済対策のため、地方の財源不足を補てんする目的で制度化された市債 187百万円を含む。

一時借入金の現在高

（単位：百万円）

公営企業会計名	予算で定められた限度額	前期末残高	今期中借入高	今期中償還高	今期末残高
病院事業	300	0	0	0	0
下水道事業	15,000	0	8,380	8,380	0
水道事業	1,000	0	0	0	0

Ⅴ　平成19年度当初予算の概要

1　編成の基本的考え方

平成19年度の本市の財政見通しは、歳入では、自主財源の根幹を占める市税は、景気回復の影響による法人市民税の堅調な伸びや税源移譲等に伴う個人市民税の伸びが見込まれることから、増収は期待できるものの、各種基金や売却可能な未利用地の臨時的な財源は、わずかとなっている。

依存財源では、引き続き普通交付税が不交付となる見込みであるほか、国庫補助負担金の廃止・縮減など歳出・歳入一体改革の動向を見極める必要があり、市債や債務負担行為についても将来の財政負担を考慮し、抑制を基調として適切な活用を図る必要がある。

一方、歳出では、児童手当や生活保護費などの扶助費や公債費の増に加え、退職手当や新規施設の維持管理経費の増加が見込まれ、さらには、急速に進展する少子・高齢社会への的確な対応や安全で安心して暮らせるまちづくりの実現などに多額の財政需要が見込まれることから、財政収支は、引き続き極めて厳しい状況となっている。

このような財政見通しを前提に、以下の項目を基本方針として編成したところである。

(1)　行政改革の推進

新行政改革推進計画及び財政健全化プランに基づき、これまで以上に創意工夫を凝らし、行政改革の推進と財政健全化に向けた取組みを強化し、改善策については、可能な限り予算に反映させる。

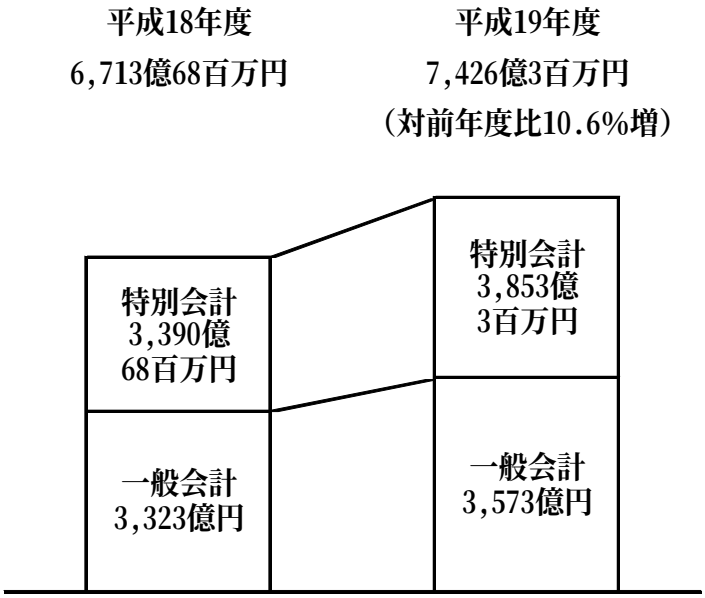
特に、既定の事務事業については、事務事業評価システムを活用して、事業効果を検証し、既成概念にとらわれない大胆な事業の廃止や縮小など、さらに徹底した見直しを図る。

(2)　第２次５か年計画の推進

第２次５か年計画の２年次目として、本市の将来像の実現と市域の均衡ある発展を目指し、「千葉市らしさの確立」や「安全・安心のまちづくり」など、12の「まちづくりの大切な視点」を踏まえ、緊急性・重要性などから事業の厳選を行った上で、計画事業の着実な推進を図る。

2　予算の内容

(1) 予算の規模

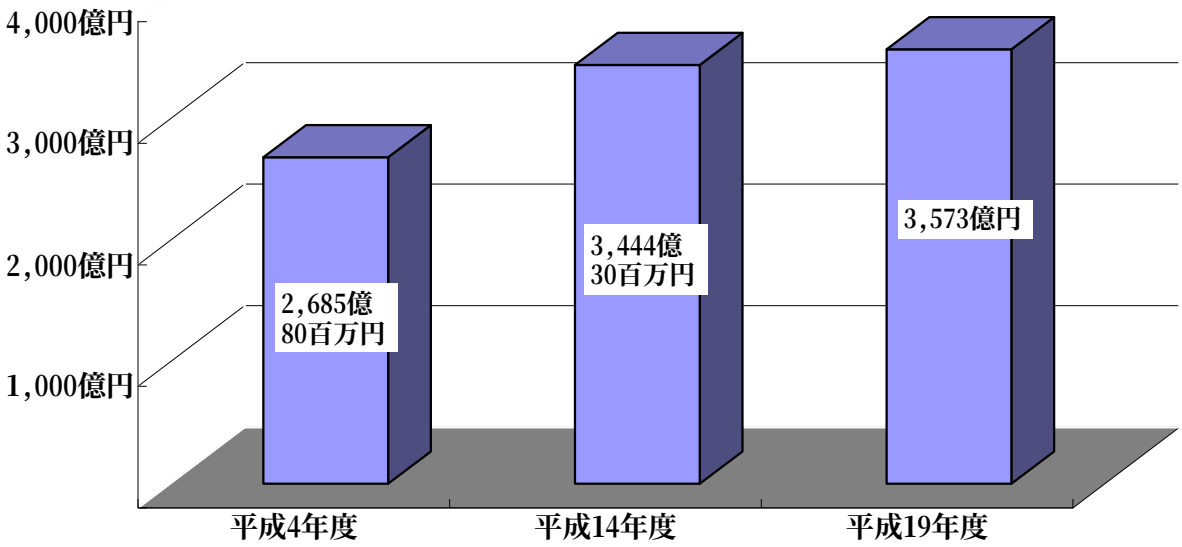


平成19年度一般会計の歳入歳出予算規模は、総額3,573億円で、前年度と比較して250億円7.5%の増となっています。

特別会計（企業会計を含む17会計）については、下水道事業会計や農業集落排水事業会計等で減額となるものの、公債管理会計、国民健康保険事業会計及び老人保健医療事業会計等で増額となることから、特別会計の総額は3,853億3百万円で、前年度と比較して462億35百万円、13.6%の増となっています。

以上、全会計を合わせた規模は7,426億3百万円で、前年度と比較して712億35百万円、10.6%の増となっています。

一般会計当初予算額の推移



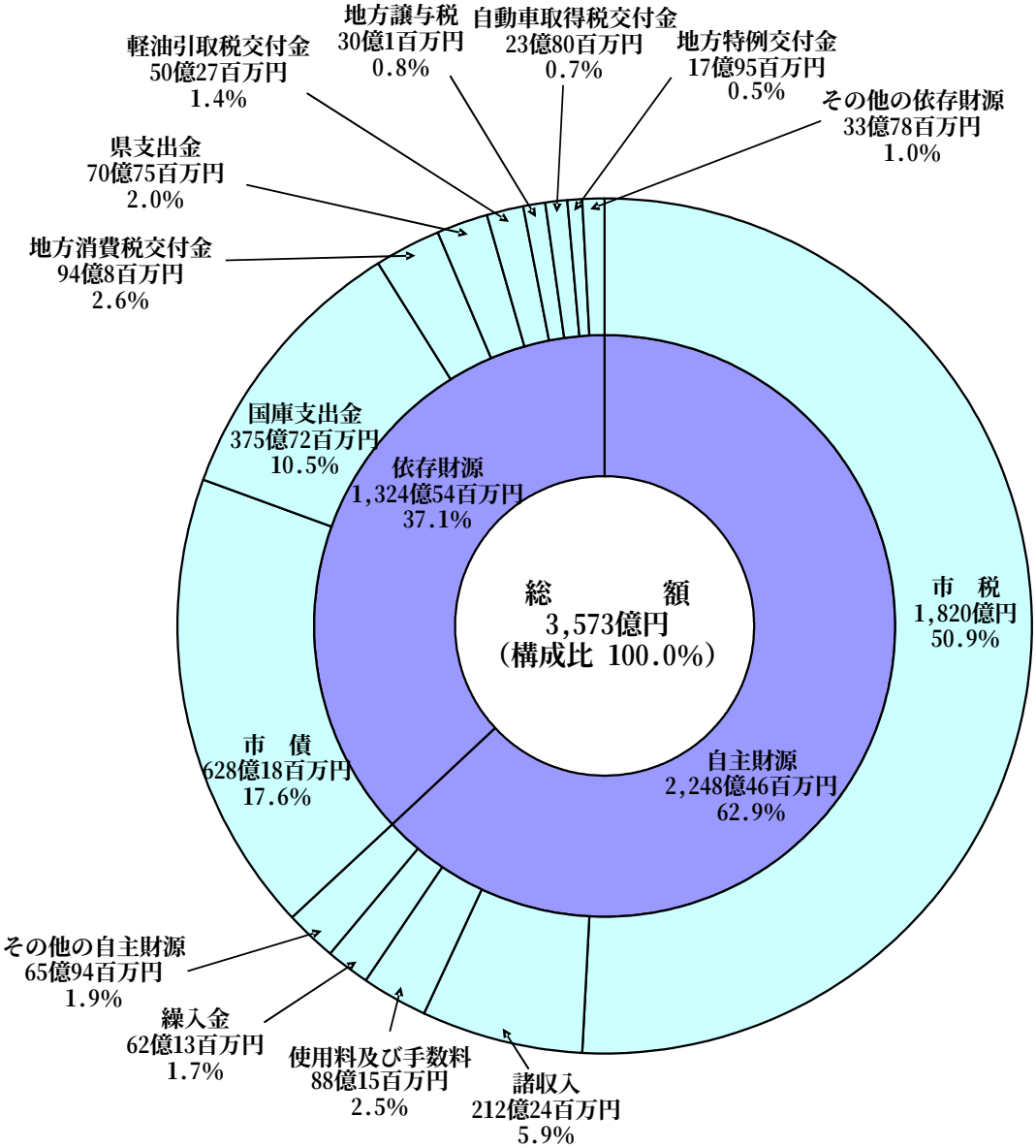
(2) 一般会計予算

（ 歳 入 ）

歳入予算の主なものとしては、市税が1,820億円、構成比50.9%と、歳入の根幹を成しています。

次いで、市債が628億18百万円、構成比17.6%となっていますが、この中には地方財政の収支不足を補てんするための臨時財政対策債105億円が含まれています。

この他、国庫支出金は375億72百万円、構成比10.5%となっており、以下、諸収入、地方消費税交付金、使用料及び手数料の順となっています。



自主財源と依存財源

・自主財源とは、市税や使用料等のように市が自主的に収入するものです。

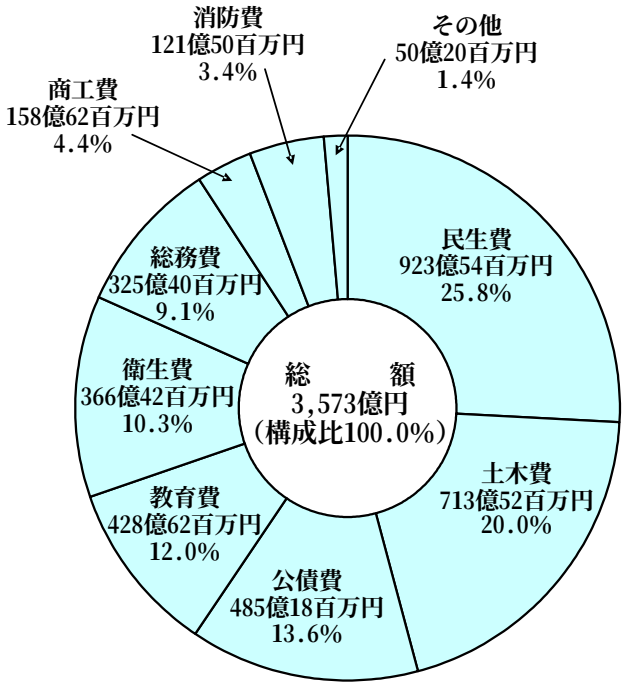
・依存財源とは、国庫支出金や県支出金、市債等のように国や県の意思決定に基づいて収入されるものです。

市税の主な内訳

税　目	予　算　額	構成比
市　民　税	929億90百万円	51.1　%
固定資産税	653億 4百万円	35.9
都市計画税	123億68百万円	6.8
市たばこ税	62億50百万円	3.4
事業所税	44億87百万円	2.5
そ　の　他	6億 1百万円	0.3
計	1,820億円	100.0

（ 歳 出 ）

目的別の内訳



歳出予算の主なものとしては、民生費が第１位で、923億54百万円、構成比25.8%となっています。

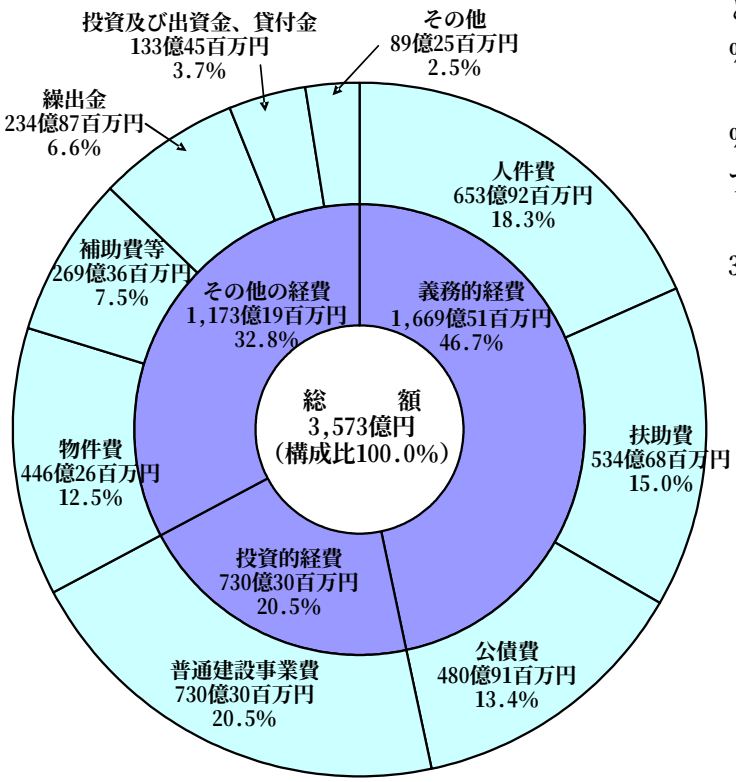
次いで、土木費が713億52百万円、構成比20.0%、公債費が485億18百万円、構成比13.6%、以下、教育費、衛生費、総務費、商工費、消防費の順となっています。

目的別経費と性質別経費

目的別経費とは、どのような行政上の目的のために費やされるかという基準により分類されるもので、議会費、教育費、土木費等をいいます。

性質別経費とは、具体的な行政目的がどのようなものであるかにかかわりなく、その経費がどのような性質を有するかという点に着目して分類するもので、人件費、物件費、維持補修費等をいいます。

性質別の内訳



財政構造の面から歳出予算を性質別でみますと、義務的経費が1,669億51百万円、構成比46.7%となっています。

投資的経費は、730億30百万円、構成比20.5%で、その全てが普通建設事業費となっています。

その他の経費は、1,173億19百万円、構成比32.8%となっています。

義務的経費と投資的経費

義務的経費とは、極めて硬直性の強い経費であって、その支出が義務付けられ、任意に削減できない経費で、人件費、扶助費、公債費をいいます。

投資的経費とは、支出効果が資本形成に向けられ、施設等がストックとして将来に残るもので、普通建設事業費、災害復旧事業費、失業対策事業費をいいます。

(3) 特別会計予算

平成19年度の公営企業会計を除く特別会計14会計の予算総額は、3,100億92百万円となっています。

主な会計といたしましては、公債管理が1,181億35百万円、国民健康保険事業が800億82百万円、老人保健医療事業が457億63百万円、介護保険事業が356億79百万円、競輪事業が166億24百万円となっています。

（単位：百万円）

区分 会計名	平成19年度 当初予算額 (A)	平成18年度 当初予算額 (B)	増減額 (A)－(B) (C)	増減率 (C)／(B) (D)
公債管理	118,135	85,024	33,112	38.9 %
国民健康保険	80,082	72,604	7,478	10.3
老人保健医療	45,763	41,627	4,137	9.9
介護保険	35,679	33,534	2,146	6.4
競輪	16,624	16,585	39	0.2
市街地再開発	3,258	1,095	2,163	197.5
公共用地取得	2,719	1,607	1,113	69.3
学校給食センター	2,189	2,239	△ 50	△ 2.2
動物公園	1,503	1,535	△ 32	△ 2.1
中央卸売市場	1,203	1,198	5	0.4
都市計画土地区画整理	1,124	1,129	△ 5	△ 0.5
農業集落排水	752	1,297	△ 545	△ 42.0
霊園	679	693	△ 13	△ 1.9
母子寡婦福祉資金貸付	381	380	1	0.4
合計	310,092	260,545	49,547	19.0

（注）表示単位未満を四捨五入してあるので計欄及び割合が一致しない場合があります。

(4) 公営企業会計予算

平成19年度の公営企業3会計の予算総額は、752億10百万円となっています。

（単位：百万円）

会計名 ＼ 区分		平成19年度当初予算額 (A)	平成18年度当初予算額 (B)	増減額 (A)－(B) (C)	増減率 (C)／(B) (D)
病院事業		19,671	19,623	47	0.2 %
	収益的収支	17,014	16,955	59	0.3
	資本的収支	2,657	2,668	△ 11	△ 0.4
下水道事業		50,992	53,825	△ 2,832	△ 5.3
	収益的収支	22,330	22,849	△ 519	△ 2.3
	資本的収支	28,663	30,975	△ 2,313	△ 7.5
水道事業		4,547	5,075	△ 528	△ 10.4
	収益的収支	2,062	1,984	77	3.9
	資本的収支	2,486	3,091	△ 605	△ 19.6
合計		75,210	78,523	△ 3,313	△ 4.2
	収益的収支	41,405	41,789	△ 384	△ 0.9
	資本的収支	33,805	36,734	△ 2,929	△ 8.0

（注）表示単位未満を四捨五入してあるので計欄及び割合が一致しない場合があります。

本年度の経営方針

病院事業

本年度の業務の予定量は、青葉病院が入院患者で115,702人、外来患者で220,500人であり、また海浜病院は入院患者で94,742人、外来患者で190,460人を予定しています。それぞれ、地域中核病院としての機能を高めつつ、患者サービスの向上に努めていきます。

下水道事業

本年度の業務の予定量は、整備面積47ha、累計処理面積12,143ha、水洗化助成件数600件、平成19年度末下水道汚水処理普及率97.0%を見込んでいます。

汚水管の整備を推進し、都市基盤整備と公共下水道の普及促進に努め、快適で衛生的な生活環境の改善を図っていきます。

なお、運営にあたっては、より一層の経費の節減と管理の効率化を図り、健全な下水道経営に努めていきます。

水道事業

本年度の業務の予定量は、給水戸数16,324戸、総給水量4,594,000㎥（１日平均給水量12,552㎥）となっています。

なお、運営にあたっては、より一層の経費の節減を図り、効率的な事業経営に努めていきます。

平成19年6月

市の財政（財政状況の公表）

平成19年６月１日発行

編集
発行　千葉市財政局財政部財政課

千葉市中央区千葉港１番１号
電話 043（245）5077

この印刷物は再生紙を使用しています。

※本市の予算・決算など、財政に関するその他の資料については、財政課ホームページをご覧ください。

http//www.city.chiba.jp/zaiseikyoku/zaisei/zaisei/

THE FLOWERY CITY・CHIBA

花の都・ちば